

浜の活力再生プラン (第 2 期)

1 地域水産業再生委員会 ID : 1101080

組織名	釧路市東部地域水産業再生委員会
代表者名	会長 北 島 千 也

再生委員会の構成員	釧路市東部漁業協同組合、釧路市
オブザーバー	北海道釧路総合振興局 北海道漁業協同組合連合会釧路支店 北海道信用漁業協同組合連合会釧路支店 北海道漁業共済組合釧路支所

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の範囲：北海道釧路市（阿寒町及び音別町を除く） （釧路市東部漁業協同組合の範囲） ・ 対象漁業種類 対象着業者数 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">こ ん ぶ 漁 業</td> <td style="text-align: right;">9 9 経営体</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">さ け 定 置 網 漁 業</td> <td style="text-align: right;">6 経営体</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">し しゃ も こ ぎ 網 漁 業</td> <td style="text-align: right;">1 2 経営体</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ほ っ き が い 漁 業</td> <td style="text-align: right;">6 経営体</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">つ ぶ か ご 漁 業</td> <td style="text-align: right;">7 経営体</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他兼業</td> <td></td> </tr> </table> （たこ空釣縄漁業、いかつり漁業、さんま漁業、けがにかご漁業、うに潜水器漁業、各種刺し網漁業） ・ 漁業者数 : 正組員 1 1 3 名 	こ ん ぶ 漁 業	9 9 経営体	さ け 定 置 網 漁 業	6 経営体	し しゃ も こ ぎ 網 漁 業	1 2 経営体	ほ っ き が い 漁 業	6 経営体	つ ぶ か ご 漁 業	7 経営体	その他兼業	
こ ん ぶ 漁 業	9 9 経営体												
さ け 定 置 網 漁 業	6 経営体												
し しゃ も こ ぎ 網 漁 業	1 2 経営体												
ほ っ き が い 漁 業	6 経営体												
つ ぶ か ご 漁 業	7 経営体												
その他兼業													

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地域は、北海道の東部に位置する釧路市にあり、「釧路湿原」、「阿寒」の二つの国立公園をはじめとする、雄大な自然に恵まれた街であり、東北海道の中核・拠点都市として社会、経済、文化の中心的な機能を担っている。</p> <p>釧路市の水産業は、北海道を代表する生産拠点の釧路港があり、最盛期には日本一の水揚量を誇るなど、地域経済を牽引しており、主にスケトウダラやサンマ等が水揚げされ、また、全国でも数少ない調査捕鯨の基地にもなっている。</p> <p>また、当地域では漁家戸数 1 1 3 戸で、こんぶ漁業、さけ定置網漁業、ししゃもこぎ網漁業、ほっきがい漁業、つぶかご漁業などが営まれている。</p> <p>こんぶ漁業は、漁家の 9 9 戸が着業し、組合水揚高の 3 6 % を占め、組合の主幹漁業であるとともに、地域経済に欠かせない漁業となっているため、漁場の造成を図り資源の増大を進めている。</p> <p>近年は、高水温等の影響により漁場環境が変化し、来遊する魚類の資源量の減少や、価格の低迷、長く続いた燃油価格や資材の高止まりの影響などにより、漁家経営は厳しさを増しており、近年の水揚げ高は 1 0 億円台で推移していたが、サケの極端な不漁やコンブの流氷被害などもあり、平成 2 9 年の水揚げ高は約 8 億 4 千万円と厳しい状況となっている。</p> <p>この様な中、漁業者の経営安定を図る為に、官民一体となって、従来から取り組んでいる資源管理型漁業や地産地消の取組みを継続するほか、「浜の活力再生プラン」の取組を継続し、付加価値向上やコスト削減に努め、漁業所得の向上を目指す。</p>
--

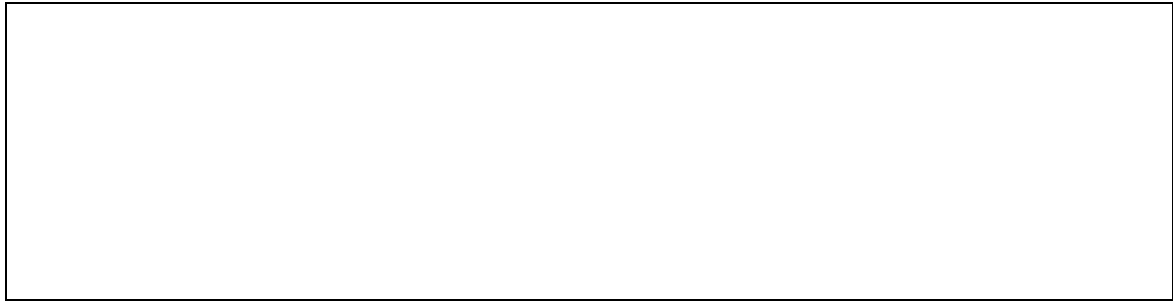
(2) その他の関連する現状等

当地域は、漁業への依存度が高く、漁業の盛衰が直接地域産業へ影響を及ぼす状況となっている。特にサケ、サンマ、シシャモ、コンブ等の漁獲量の減少は、原材料の仕入れ先を海外を含む他地域へ求める事による輸送費等の増加や、地産の魚介類を使用した特産品の製造減等に繋がるなど経営を圧迫する要因となっている。

又、組合員の高齢化が進み、経営者の70%に後継者がいない等の問題があり、後継者の確保対策も重要な課題となっており、地元基幹産業である漁業への関心を高める為に、地元小学生を対象に漁協青年部が「出前授業」を行い、水産に対する積極的な啓蒙活動や、女性部による料理講習会の開催等による魚食普及に努めている。

3 活性化の取組方針

(1)前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

水産資源の安定、魚価の向上、漁労経費の削減に取り組むこととし、前期に引き続き漁業所得の向上による漁家経営の安定と、当地域の活性化を目指す。

- ① 水産資源の安定を図り、将来に亘り持続的に水揚を確保するためには、資源の維持・増大対策及び資源保護、さらには漁業収入を維持できる単価向上が必要であることから、これらを実現するため、ウニ、マツカワ、ツブ、ホッキの種苗放流、ヒトデなどの害敵駆除、ケガニ、シシャモ、ホッキの徹底した資源量調査による漁獲限度量の設定のほか、下記の取組みを行う。

(継続して実施する取組)

- ・ 昆布漁場における雑海藻駆除による資源の維持・増大や「食べる昆布」としての付加価値向上
- ・ サケ（トキシラズ）の船上活メによる鮮度保持と付加価値向上
- ・ シシャモの徹底した資源量調査による漁獲限度量の設定と・地域団体商標登録されている「釧路ししゃも」のブランド確立に向けた取組みと販路拡大
- ・ 蓄養施設等の活用した、ホッキやツブの鮮度保持と計画出荷による付加価値向上
- ・ 魚食普及による消費・流通の拡大対策とPR体制の強化

(新たに実施する取組)

- ・ 秋サケの船上活メによる鮮度保持と付加価値向上
- ・ 鳥糞等の異物混入や直射日光の防ぐため、屋根付き岸壁の整備を行い、衛生管理・鮮度保持対策を図る。

- ② 効率的で安定的な漁業経営を確立するため、第1期浜プランに引き続き次の取組みを行う。
- ・ 省エネ機器等の導入による漁業用燃油経費の削減
 - ・ 船体及び機器メンテナンスの実施による負荷の低減
 - ・ 減速航行や漁場情報の共有化等、効率的な操業体制の構築による省燃油活動の実施
 - ・ 漁港の機能を回復し、安全で効率的な操業の実現
- ③ 以上の取組みに加え、高齢漁業者及び漁業後継者等が働きやすい就労環境を目指し、第1期浜プランに引き続き次の取組みを行う。
- ・ 漁労作業の省力化及び共同化・協業化を推進する為の共同利用施設等の整備
 - ・ 将来に渡って安定した生産活動を継続するため、漁業後継者の維持確保

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・ 資源量調査による自主的な漁獲量制限の設定（けがに・ししゃも・ほっき）
- ・ 共同漁業権行使規則に基づく制限の徹底による資源保護（うに・かれい・ほっき）

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度） 所得8. 1%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 昆布漁業者99経営体は、昆布漁場や疲弊した漁場の雑海藻駆除を行うことで、漁場の拡大を図り、3年サイクル及び4年サイクルの輪採操業とする中、モニタリング調査を実施することで生産性の高い漁場の確保に努める。</p> <p>第1期浜プランに引き続き、釧路市東部漁協と昆布漁業者及び釧路市東部漁協女性部は、釧路昆布普及協議会と連携し、関西地区や九州など西日本を中心にラジオ大阪主催の「OBCラジオまつり」への参加や現地の昆布取扱商社との意見交換などを通じて「釧路産なが昆布」の販売・宣伝活動等に取り組む。また、食べる昆布としてやわらかい「棹前昆布」は長昆布の中でも採取時期の関係から希少性が高いが、他地域（日高・利尻など）と比べ知名度が低い。このため「釧路産なが昆布」のうち、特に「棹前昆布」は「食べる昆布」として希少価値が高いことを強調して販売・宣伝活動を行い、認知度向上及び消費拡大に取り組む。</p> <p>・ さけ定置漁業者6経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き春の定置網漁業で水揚げする春サケの中から、釧路市や関係漁協、関連団体で構成される「釧路ブランド推進委員会」が推奨する基準を満たした良質なトキシラズを選別し、新たに導入した「船上自動活〆機」を活用することで、活〆作業の効率化や鮮度の均一化を図るとともに、活〆後は魚体重量別にプラスチック魚函に選別（4尾～8尾程度）のうえ、魚倉に氷を入れて低温管理（10℃以下）を徹底し、さらに、高鮮度を保つ出荷体制を構築することで、「釧路ブランドの定置トキシラズ」として付加価値の向上に取り組む。</p> <p>秋サケについても、第2期浜プランからは「船上自動活〆機」を活用し船上活締めを行い、鮮度の向上を図り、価格の向上に取り組んでいく。</p> <p>・ ししゃもこぎ網漁業者12経営体と漁協は、研究機関等の協力により資源調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが上限漁獲量を設定し計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、調査等から河川遡上時期を予測し、遡上開始時には、自主的に操業を規制し、産卵親魚の河川遡上を促進する。</p> <p>また、平成25年3月に地域団体商標登録された「釧路ししゃも」の知名度向上と販路拡大に向け、「釧路地域ブランド推進委員会」が定めた干しししゃもなどについての取扱基準（水分量、塩分量、製品重量、添加物不使用など）を活用し、基準を満たした認定商品は、販売ポスターやロゴマークなど統一カラー（赤）を活かした「釧路地域ブランド推進委員会」の販売戦略に基づき、空港や駅、観光スポット売店などで限定販売するなど、差別化を図ることで競争力の強化に努める。なお、近年は漁獲量減少の影響などから、地元加工業者や流通・小売店、観光協会と連携したPR活動が滞っているが、漁獲量も回復傾向にあるため第1期浜プランから引き続き取り組んでいく。</p> <p>・ ほっき漁業者6経営体及びつぶかご漁業者7経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き研究機関等と協力して資源量調査を行うことで資源量を把握し、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努めるとともに、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕耘や漁場以外の浅海域で発生している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。また、畜養水槽や殺菌海水施設を活用して、漁獲物を「活」保管し、衛生管理・鮮度管理を図るとともに、需要に合わせた出荷により魚価の安定と販路拡大、付加価値の向上に取り組む。</p> <p>・ 全漁業経営体及び釧路市東部漁協は、札幌など大消費地において漁協の移動販売車を活用した直売などの販売促進活動を行い、自らが水揚げした水産物の魚価の安定と付加価値の向上に取り組む。</p> <p>また、シシャモのオスは、焼きししゃも原料としてはメスに比べて評価が低いが、脂の乗りは良く独特のうま味があることから、ししゃもこぎ網漁業者及び漁協は、漁獲直後にオス30g以上の銀毛の良品を厳選し船上で氷水につけて高鮮度管理を徹底することにより生食を可能とした「ししゃもの刺身」用フィレ製品などを、漁協直売土曜日や産地直販、販売促進イベント等を通じて販売するほか、鮮魚・昆布等の販売やPR活動を行い第1期浜プランに引き続き「釧路市東部ブランド」の普及促進を図る。</p> <p>・ 漁港の衛生管理施設（屋根付き岸壁）の早期整備のため、関係機関へ要請を行</p>
---------------------	---

	<p>うとともに、市場職員、各漁業部会へ衛生管理、鮮度保持の周知徹底を行い、衛生管理意識の向上を図る。</p> <p>これらの取り組みにより、基準年より0.6%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業経営体は、第1期浜プランに引き続き減速航行及び船底清掃と機器、設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動に取り組む。 また、機関の換装や漁船の建造の際には、省エネ機器を積極的に導入する事により、燃油の節減に取り組む。 ・ 昆布漁業者と漁協は、昆布重量選別機や昆布乾燥機の吊り上げ機の導入を促進し、選葉作業に係る人件費等の削減や就労環境の改善に取り組む。 ・ 関係漁業者と漁協は桂恋漁港の静穏度を確保するため、防波堤、物揚場、船揚場などの整備を北海道庁に要請するとともに、機能が回復した漁港を有効活用し、荷下ろし作業の軽減、漁船の損傷防止を図り、効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.3%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 水産基盤整備事業（国） ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ 浜の担い手漁船リース事業（国） ・ 釧路市水産業振興条例補助金（釧路市）

2年目（平成32年度） 所得8. 1%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 昆布漁業者99経営体は、昆布漁場や疲弊した漁場の雑海藻駆除を行うことで、漁場の拡大を図り、3年サイクル及び4年サイクルの輪採操業とする中、モニタリング調査を実施することで生産性の高い漁場の確保に努める。</p> <p>第1期浜プランに引き続き、釧路市東部漁協と昆布漁業者及び釧路市東部漁協女性部は、釧路昆布普及協議会と連携し、関西地区や九州など西日本を中心にラジオ大阪主催の「OBCラジオまつり」への参加や現地の昆布取扱商社との意見交換などを通じて「釧路産なが昆布」の販売・宣伝活動等に取り組む。また、食べる昆布としてやわらかい「棹前昆布」は長昆布の中でも採取時期の関係から希少性が高いが、他地域（日高・利尻など）と比べ知名度が低い。このため「釧路産なが昆布」のうち、特に「棹前昆布」は「食べる昆布」として希少価値が高いことを強調して販売・宣伝活動を行い、認知度向上及び消費拡大に取り組む。</p> <p>・ さけ定置漁業者6経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き春の定置網漁業で水揚げする春サケの中から、釧路市や関係漁協、関連団体で構成される「釧路ブランド推進委員会」が推奨する基準を満たした良質なトキシラズを選別し、新たに導入した「船上自動活〆機」を活用することで、活〆作業の効率化や鮮度の均一化を図るとともに、活〆後は魚体重量別にプラスチック魚函に選別（4尾～8尾程度）のうえ、魚倉に氷を入れて低温管理（10℃以下）を徹底し、さらに、高鮮度を保つ出荷体制を構築することで、「釧路ブランドの定置トキシラズ」として付加価値の向上に取り組む。</p> <p>秋サケについても、第2期浜プランからは「船上自動活〆機」を活用し船上活締めを行い、鮮度の向上を図り、価格の向上に取り組んでいく。</p> <p>・ ししゃもこぎ網漁業者12経営体と漁協は、研究機関等の協力により資源調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが上限漁獲量を設定し計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、調査等から河川遡上時期を予測し、遡上開始時には、自主的に操業を規制し、産卵親魚の河川遡上を促進する。</p> <p>また、平成25年3月に地域団体商標登録された「釧路ししゃも」の知名度向上と販路拡大に向け、「釧路地域ブランド推進委員会」が定めた干しししゃもなどについての取扱基準（水分量、塩分量、製品重量、添加物不使用など）を活用し、基準を満たした認定商品は、販売ポスターやロゴマークなど統一カラー（赤）を活かした「釧路地域ブランド推進委員会」の販売戦略に基づき、空港や駅、観光スポット売店などで限定販売するなど、差別化を図ることで競争力の強化に努める。なお、近年は漁獲量減少の影響などから、地元加工業者や流通・小売店、観光協会と連携したPR活動が滞ってはおるが、漁獲量も回復傾向にあるため第1期浜プランから引き続き取り組んでいく。</p> <p>・ ほっき漁業者6経営体及びつぶかご漁業者7経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き研究機関等と協力して資源量調査を行うことで資源量を把握し、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努めるとともに、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕耘や漁場以外の浅海域で発生している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。また、畜養水槽や殺菌海水施設を活用して、漁獲物を「活」保管し、衛生管理・鮮度管理を図るとともに、需要に合わせた出荷により魚価の安定と販路拡大、付加価値の向上に取り組む。</p> <p>・ 全漁業経営体及び釧路市東部漁協は、札幌など大消費地において漁協の移動販売車を活用した直売などの販売促進活動を行い、自らが水揚げした水産物の魚価の安定と付加価値の向上に取り組む。</p> <p>また、シシャモのオスは、焼きししゃも原料としてはメスに比べて評価が低いが、脂の乗りは良く独特のうま味があることから、ししゃもこぎ網漁業者及び漁協は、漁獲直後にオス30g以上の銀毛の良品を厳選し船上で氷水につけて高鮮度管理を徹底することにより生食を可能とした「ししゃもの刺身」用フィレ製品などを、漁協直売土曜日や産地直販、販売促進イベント等を通じて販売するほか、鮮魚・昆布等の販売やPR活動を行い第1期浜プランに引き続き「釧路市東部ブランド」の普及促進を図る。</p> <p>・ 漁港の衛生管理施設（屋根付き岸壁）の早期整備のため、関係機関へ要請を行</p>
---------------------	--

	<p>うとともに、市場職員、各漁業部会へ衛生管理、鮮度保持の周知徹底を行い、衛生管理意識の向上を図る。</p> <p>これらの取り組みにより、基準年より0.6%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業経営体は、第1期浜プランに引き続き減速航行及び船底清掃と機器、設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動に取り組む。 また、機関の換装や漁船の建造の際には、省エネ機器を積極的に導入する事により、燃油の節減に取り組む。 ・ 昆布漁業者と漁協は、昆布重量選別機や昆布乾燥機の吊り上げ機の導入を促進し、選葉作業に係る人件費等の削減や就労環境の改善に取り組む。 ・ 関係漁業者と漁協は桂恋漁港の静穏度を確保するため、防波堤、物揚場、船揚場などの整備を北海道庁に要請するとともに、機能が回復した漁港を有効活用し、荷下ろし作業の軽減、漁船の損傷防止を図り、効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.3%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 水産基盤整備事業（国） ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ 浜の担い手漁船リース事業（国） ・ 釧路市水産業振興条例補助金（釧路市）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 昆布漁業者99経営体は、昆布漁場や疲弊した漁場の雑海藻駆除を行うことで、漁場の拡大を図り、3年サイクル及び4年サイクルの輪採操業とする中、モニタリング調査を実施することで生産性の高い漁場の確保に努める。</p> <p>第1期浜プランに引き続き、釧路市東部漁協と昆布漁業者及び釧路市東部漁協女性部は、釧路昆布普及協議会と連携し、関西地区や九州など西日本を中心にラジオ大阪主催の「OBCラジオまつり」への参加や現地の昆布取扱商社との意見交換などを通じて「釧路産なが昆布」の販売・宣伝活動等に取り組む。また、食べる昆布としてやわらかい「棹前昆布」は長昆布の中でも採取時期の関係から希少性が高いが、他地域（日高・利尻など）と比べ知名度が低い。このため「釧路産なが昆布」のうち、特に「棹前昆布」は「食べる昆布」として希少価値が高いことを強調して販売・宣伝活動を行い、認知度向上及び消費拡大に取り組む。</p> <p>・ さけ定置漁業者6経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き春の定置網漁業で水揚げする春サケの中から、釧路市や関係漁協、関連団体で構成される「釧路ブランド推進委員会」が推奨する基準を満たした良質なトキシラズを選別し、新たに導入した「船上自動活〆機」を活用することで、活〆作業の効率化や鮮度の均一化を図るとともに、活〆後は魚体重量別にプラスチック魚函に選別（4尾～8尾程度）のうえ、魚倉に氷を入れて低温管理（10℃以下）を徹底し、さらに、高鮮度を保つ出荷体制を構築することで、「釧路ブランドの定置トキシラズ」として付加価値の向上に取り組む。</p> <p>秋サケについても、第2期浜プランからは「船上自動活〆機」を活用し船上活締めを行い、鮮度の向上を図り、価格の向上に取り組んでいく。</p> <p>・ ししゃもこぎ網漁業者12経営体と漁協は、研究機関等の協力により資源調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが上限漁獲量を設定し計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、調査等から河川遡上時期を予測し、遡上開始時には、自主的に操業を規制し、産卵親魚の河川遡上を促進する。</p> <p>また、平成25年3月に地域団体商標登録された「釧路ししゃも」の知名度向上と販路拡大に向け、「釧路地域ブランド推進委員会」が定めた干しししゃもなどについての取扱基準（水分量、塩分量、製品重量、添加物不使用など）を活用し、基準を満たした認定商品は、販売ポスターやロゴマークなど統一カラー（赤）を活かした「釧路地域ブランド推進委員会」の販売戦略に基づき、空港や駅、観光スポット売店などで限定販売するなど、差別化を図ることで競争力の強化に努める。なお、近年は漁獲量減少の影響などから、地元加工業者や流通・小売店、観光協会と連携したPR活動が滞っていているが、漁獲量も回復傾向にあるため第1期浜プランから引き続き取り組んでいく。</p> <p>・ ほっき漁業者6経営体及びつぶかご漁業者7経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き研究機関等と協力して資源量調査を行うことで資源量を把握し、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努めるとともに、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕耘や漁場以外の浅海域で発生している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。また、畜養水槽や殺菌海水施設を活用して、漁獲物を「活」保管し、衛生管理・鮮度管理を図るとともに、需要に合わせた出荷により魚価の安定と販路拡大、付加価値の向上に取り組む。</p> <p>・ 全漁業経営体及び釧路市東部漁協は、札幌など大消費地において漁協の移動販売車を活用した直売などの販売促進活動を行い、自らが水揚げした水産物の魚価の安定と付加価値の向上に取り組む。</p> <p>また、シシャモのオスは、焼きししゃも原料としてはメスに比べて評価が低いですが、脂の乗りは良く独特のうま味があることから、ししゃもこぎ網漁業者及び漁協は、漁獲直後にオス30g以上の銀毛の良品を厳選し船上で氷水につけて高鮮度管理を徹底することにより生食を可能とした「ししゃもの刺身」用フィレ製品などを、漁協直売土曜日や産地直販、販売促進イベント等を通じて販売するほか、鮮魚・昆布等の販売やPR活動を行い第1期浜プランに引き続き「釧路市東部ブランド」の普及促進を図る。</p> <p>・ 第2期浜プランからは、漁港の衛生管理施設（屋根付き岸壁）が整備されるこ</p>
---------------------	---

	<p>とから、鳥糞等の異物混入や直射日光を防ぎ、衛生管理・鮮度保持対策を行うとともに、仲買業者他へ衛生管理された水産物であることをアピールし付加価値向上に取り組む。</p> <p>また、市場職員、各漁業部会へ衛生管理、鮮度保持の周知徹底を行、衛生管理意識の向上を図る。</p> <p>これらの取り組みにより、基準年より0.8%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業経営体は、第1期浜プランに引き続き減速航行及び船底清掃と機器、設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動に取り組む。 また、機関の換装や漁船の建造の際には、省エネ機器を積極的に導入する事により、燃油の節減に取り組む。 ・ 昆布漁業者と漁協は、昆布重量選別機や昆布乾燥機の吊り上げ機の導入を促進し、選葉作業に係る人件費等の削減や就労環境の改善に取り組む。 ・ 関係漁業者と漁協は桂恋漁港の静穏度を確保するため、防波堤、物揚場、船揚場などの整備を北海道庁に要請するとともに、機能が回復した漁港を有効活用し、荷下ろし作業の軽減、漁船の損傷防止を図り、効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.3%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 水産基盤整備事業（国） ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ 浜の担い手漁船リース事業（国） ・ 釧路市水産業振興条例補助金（釧路市）

4年目（平成34年度） 所得向上10.6%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 昆布漁業者99経営体は、昆布漁場や疲弊した漁場の雑海藻駆除を行うことで、漁場の拡大を図り、3年サイクル及び4年サイクルの輪採操業とする中、モニタリング調査を実施することで生産性の高い漁場の確保に努める。</p> <p>第1期浜プランに引き続き、釧路市東部漁協と昆布漁業者及び釧路市東部漁協女性部は、釧路昆布普及協議会と連携し、関西地区や九州など西日本を中心にラジオ大阪主催の「OBCラジオまつり」への参加や現地の昆布取扱商社との意見交換などを通じて「釧路産なが昆布」の販売・宣伝活動等に取り組む。また、食べる昆布としてやわらかい「棹前昆布」は長昆布の中でも採取時期の関係から希少性が高いが、他地域（日高・利尻など）と比べ知名度が低い。このため「釧路産なが昆布」のうち、特に「棹前昆布」は「食べる昆布」として希少価値が高いことを強調して販売・宣伝活動を行い、認知度向上及び消費拡大に取り組む。</p> <p>・ さけ定置漁業者6経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き春の定置網漁業で水揚げする春サケの中から、釧路市や関係漁協、関連団体で構成される「釧路ブランド推進委員会」が推奨する基準を満たした良質なトキシラズを選別し、新たに導入した「船上自動活〆機」を活用することで、活〆作業の効率化や鮮度の均一化を図るとともに、活〆後は魚体重量別にプラスチック魚函に選別（4尾～8尾程度）のうえ、魚倉に氷を入れて低温管理（10℃以下）を徹底し、さらに、高鮮度を保つ出荷体制を構築することで、「釧路ブランドの定置トキシラズ」として付加価値の向上に取り組む。</p> <p>秋サケについても、第2期浜プランからは「船上自動活〆機」を活用し船上活締めを行い、鮮度の向上を図り、価格の向上に取り組んでいく。</p> <p>・ ししゃもこぎ網漁業者12経営体と漁協は、研究機関等の協力により資源調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが上限漁獲量を設定し計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、調査等から河川遡上時期を予測し、遡上開始時には、自主的に操業を規制し、産卵親魚の河川遡上を促進する。</p> <p>また、平成25年3月に地域団体商標登録された「釧路ししゃも」の知名度向上と販路拡大に向け、「釧路地域ブランド推進委員会」が定めた干しししゃもなどについての取扱基準（水分量、塩分量、製品重量、添加物不使用など）を活用し、基準を満たした認定商品は、販売ポスターやロゴマークなど統一カラー（赤）を活かした「釧路地域ブランド推進委員会」の販売戦略に基づき、空港や駅、観光スポット売店などで限定販売するなど、差別化を図ることで競争力の強化に努める。なお、近年は漁獲量減少の影響などから、地元加工業者や流通・小売店、観光協会と連携したPR活動が滞っているが、漁獲量も回復傾向にあるため第1期浜プランから引き続き取り組んでいく。</p> <p>・ ほっき漁業者6経営体及びつぶかご漁業者7経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き研究機関等と協力して資源量調査を行うことで資源量を把握し、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努めるとともに、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕耘や漁場以外の浅海域で発生している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。また、畜養水槽や殺菌海水施設を活用して、漁獲物を「活」保管し、衛生管理・鮮度管理を図るとともに、需要に合わせた出荷により魚価の安定と販路拡大、付加価値の向上に取り組む。</p> <p>・ 全漁業経営体及び釧路市東部漁協は、札幌など大消費地において漁協の移動販売車を活用した直売などの販売促進活動を行い、自らが水揚げした水産物の魚価の安定と付加価値の向上に取り組む。</p> <p>また、シシャモのオスは、焼きししゃも原料としてはメスに比べて評価が低いですが、脂の乗りは良く独特のうま味があることから、ししゃもこぎ網漁業者及び漁協は、漁獲直後にオス30g以上の銀毛の良品を厳選し船上で氷水につけて高鮮度管理を徹底することにより生食を可能とした「ししゃもの刺身」用フィレ製品などを、漁協直売土曜日や産地直販、販売促進イベント等を通じて販売するほか、鮮魚・昆布等の販売やPR活動を行い第1期浜プランに引き続き「釧路市東部ブランド」の普及促進を図る。</p> <p>・ 第2期浜プランからは、漁港の衛生管理施設（屋根付き岸壁）が整備されるこ</p>
---------------------	---

	<p>とから、鳥糞等の異物混入や直射日光を防ぎ、衛生管理・鮮度保持対策を行うとともに、仲買業者他へ衛生管理された水産物であることをアピールし付加価値向上に取り組む。</p> <p>また、市場職員、各漁業部会へ衛生管理、鮮度保持の周知徹底を行、衛生管理意識の向上を図る。</p> <p>これらの取り組みにより、基準年より0.8%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業経営体は、第1期浜プランに引き続き減速航行及び船底清掃と機器、設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動に取り組む。 また、機関の換装や漁船の建造の際には、省エネ機器を積極的に導入する事により、燃油の節減に取り組む。 ・ 昆布漁業者と漁協は、昆布重量選別機や昆布乾燥機の吊り上げ機の導入を促進し、選葉作業に係る人件費等の削減や就労環境の改善に取り組む。 ・ 関係漁業者と漁協は桂恋漁港の静穏度を確保するため、防波堤、物揚場、船揚場などの整備を北海道庁に要請するとともに、機能が回復した漁港を有効活用し、荷下ろし作業の軽減、漁船の損傷防止を図り、効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.3%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業（国） ・ 水産基盤整備事業（国） ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ 浜の担い手漁船リース事業（国） ・ 釧路市水産業振興条例補助金（釧路市）

5年目（平成35年度） 所得向上10.6%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 昆布漁業者99経営体は、昆布漁場や疲弊した漁場の雑海藻駆除を行うことで、漁場の拡大を図り、3年サイクル及び4年サイクルの輪採操業とする中、モニタリング調査を実施することで生産性の高い漁場の確保に努める。</p> <p>第1期浜プランに引き続き、釧路市東部漁協と昆布漁業者及び釧路市東部漁協女性部は、釧路昆布普及協議会と連携し、関西地区や九州など西日本を中心にラジオ大阪主催の「OBCラジオまつり」への参加や現地の昆布取扱商社との意見交換などを通じて「釧路産なが昆布」の販売・宣伝活動等に取り組む。また、食べる昆布としてやわらかい「棹前昆布」は長昆布の中でも採取時期の関係から希少性が高いが、他地域（日高・利尻など）と比べ知名度が低い。このため「釧路産なが昆布」のうち、特に「棹前昆布」は「食べる昆布」として希少価値が高いことを強調して販売・宣伝活動を行い、認知度向上及び消費拡大に取り組む。</p> <p>・ さけ定置漁業者6経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き春の定置網漁業で水揚げする春サケの中から、釧路市や関係漁協、関連団体で構成される「釧路ブランド推進委員会」が推奨する基準を満たした良質なトキシラズを選別し、新たに導入した「船上自動活〆機」を活用することで、活〆作業の効率化や鮮度の均一化を図るとともに、活〆後は魚体重量別にプラスチック魚函に選別（4尾～8尾程度）のうえ、魚倉に氷を入れて低温管理（10℃以下）を徹底し、さらに、高鮮度を保つ出荷体制を構築することで、「釧路ブランドの定置トキシラズ」として付加価値の向上に取り組む。</p> <p>秋サケについても、第2期浜プランからは「船上自動活〆機」を活用し船上活締めを行い、鮮度の向上を図り、価格の向上に取り組んでいく。</p> <p>・ ししゃもこぎ網漁業者12経営体と漁協は、研究機関等の協力により資源調査を実施し、釧路・十勝管内の関係漁業者と漁協が合意のうえ、漁業者自らが上限漁獲量を設定し計画的な操業に努めることにより資源管理を徹底する。加えて、調査等から河川遡上時期を予測し、遡上開始時には、自主的に操業を規制し、産卵親魚の河川遡上を促進する。</p> <p>また、平成25年3月に地域団体商標登録された「釧路ししゃも」の知名度向上と販路拡大に向け、「釧路地域ブランド推進委員会」が定めた干しししゃもなどについての取扱基準（水分量、塩分量、製品重量、添加物不使用など）を活用し、基準を満たした認定商品は、販売ポスターやロゴマークなど統一カラー（赤）を活かした「釧路地域ブランド推進委員会」の販売戦略に基づき、空港や駅、観光スポット売店などで限定販売するなど、差別化を図ることで競争力の強化に努める。なお、近年は漁獲量減少の影響などから、地元加工業者や流通・小売店、観光協会と連携したPR活動が滞っているが、漁獲量も回復傾向にあるため第1期浜プランから引き続き取り組んでいく。</p> <p>・ ほっき漁業者6経営体及びつぶかご漁業者7経営体と漁協は、第1期浜プランに引き続き研究機関等と協力して資源量調査を行うことで資源量を把握し、漁協管理のもと禁漁区、殻長制限、漁獲量の上限を設定、適正な漁獲管理に努めるとともに、生産力が低下した漁場の再生と更なる生息域拡大のための漁場耕耘や漁場以外の浅海域で発生している稚貝や操業中に混獲された稚貝を適地に移植放流することで資源の維持増大を図る。また、畜養水槽や殺菌海水施設を活用して、漁獲物を「活」保管し、衛生管理・鮮度管理を図るとともに、需要に合わせた出荷により魚価の安定と販路拡大、付加価値の向上に取り組む。</p> <p>・ 全漁業経営体及び釧路市東部漁協は、札幌など大消費地において漁協の移動販売車を活用した直売などの販売促進活動を行い、自らが水揚げした水産物の魚価の安定と付加価値の向上に取り組む。</p> <p>また、シシャモのオスは、焼きししゃも原料としてはメスに比べて評価が低いですが、脂の乗りは良く独特のうま味があることから、ししゃもこぎ網漁業者及び漁協は、漁獲直後にオス30g以上の銀毛の良品を厳選し船上で氷水につけて高鮮度管理を徹底することにより生食を可能とした「ししゃもの刺身」用フィレ製品などを、漁協直売土曜日や産地直販、販売促進イベント等を通じて販売するほか、鮮魚・昆布等の販売やPR活動を行い第1期浜プランに引き続き「釧路市東部ブランド」の普及促進を図る。</p> <p>・ 第2期浜プランからは、漁港の衛生管理施設（屋根付き岸壁）が整備されるこ</p>
---------------------	---

	<p>とから、鳥糞等の異物混入や直射日光を防ぎ、衛生管理・鮮度保持対策を行うとともに、仲買業者他へ衛生管理された水産物であることをアピールし付加価値向上に取り組む。</p> <p>また、市場職員、各漁業部会へ衛生管理、鮮度保持の周知徹底を行、衛生管理意識の向上を図る。</p> <p>これらの取り組みにより、基準年より0.8%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業経営体は、第1期浜プランに引き続き減速航行及び船底清掃と機器、設備メンテナンスによる燃費向上の省燃油活動に取り組む。 また、機関の換装や漁船の建造の際には、省エネ機器を積極的に導入する事により、燃油の節減に取り組む。 ・ 昆布漁業者と漁協は、昆布重量選別機や昆布乾燥機の吊り上げ機の導入を促進し、選葉作業に係る人件費等の削減や就労環境の改善に取り組む。 ・ 関係漁業者と漁協は桂恋漁港の静穏度を確保するため、防波堤、物揚場、船揚場などの整備を北海道庁に要請するとともに、機能が回復した漁港を有効活用し、荷下ろし作業の軽減、漁船の損傷防止を図り、効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。 <p>これらの取り組みにより、基準年より0.3%の経費削減を見込む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 水産基盤整備事業（国） ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ 浜の担い手漁船リース事業（国） ・ 釧路市水産業振興条例補助金（釧路市）

(5) 関係機関との連携

<p>取り組みの効果が十分に発現される様、行政（北海道、釧路市）、系統団体（北海道漁業協同組合連合会等）との連携を強固にして事業を推進すると共に、国の事業に関しては北海道を通じて情報収集等を行い、円滑な推進を図る。</p>

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	5 中 3 平均（平成 25 年～平成 29 年度） ： 漁業所得
	目標年	平成 35 年度： 漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

秋サケの船上活〆の割合	基準年	平成 29 年度： 0 トン
	目標年	平成 35 年度： 5, 500 トン

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

秋サケの水揚げが減少していることから、所得向上を図るため秋サケの船上活〆に取り組み単価の向上を図る。
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業（国）	漁業経営セーフティネット構築事業の活用により、燃油高騰の影響が緩和され、漁労経費削減を図れることから浜の活力再生プランの効果を高められる。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）	本事業の実施により、漁業者の競争力を高め、機器等導入事業を实践することで、浜の活力再生プランの効果を高められる。
水産基盤整備事業（国）	防波堤の嵩上げや港内、航路の浚渫により、航路の確保、入出港の安全性確保、時間短縮や荷降ろし作業の軽減、漁船の損傷防止を図る。
浜の担い手漁船リース事業（国）	本事業の実施により、漁業者の競争力を高め、漁船導入事業を实践することで、浜の活力再生プランの効果を高められる。
釧路市水産業振興条例補助金（釧路市）	昆布の雑海藻駆除、昆布重量選別機の導入、昆布加工品需給安定対策、マツカワ資源増大対策、ヒトデ駆除等により、永続的な漁業操業が可能となる。